国語教育論叢　総目録（第一号～第二十号）

第一号（一九九一年九月）

創刊にあたって　田中　瑩一
短作文教育における思考力の育成の問題
―藤原与一博士の理論を視点に―　岡　利道（一）
教材『手ぶくろを買いに』の授業研究　昌子　佳広（一一）
宮澤賢治トシ挽歌の行方　木村　東吉（二六）
枕草子「香炉峰の雪」（上）　三保　忠夫（四八）
『増鏡』にみられる宮廷貴族諸流の盛衰
―外戚から近臣へ―　福田　景道（六三）
『荀子』に於ける天の思想　金森千佳子（七七）
復刻　蘆田恵之助　昭和十三年の授業記録(1)
（於　島根県師範学校附属小学校）　田中　瑩一（九四）
平成二年度卒業論文題目　（一〇四）

第二号（一九九二年八月）

中学校一、二年における楽しい文法学習の試み　吉儀万智子（一）
「かん字の本」におけるYちゃんのことばの変化　山田久美子（一一）
『よだかの星』論―姿形をめぐる価値観の壁―　岩田　英作（二五）
枕草子「香炉峰の雪」（下）　三保　忠夫（三五）
馬王堆出土『帛書老子』の思想―第一章の解釈―　石飛　憲（四八）
中国回族の民間説話（一）―人類起源・回族起源説話―　胡　軍・田中　瑩一（五八）
復刻　蘆田恵之助　昭和十三年の授業記録(2)
（於　島根県師範学校附属小学校）　田中　瑩一（六七）
近著紹介　桑原文次郎著『文章法とその応用』（七七）
平成三年度卒業論文題目　（七九）

第三号（一九九三年八月）

私の文集史―二十二年間の歩み―　大畑　俊正（一）
自ら読みすすめる説明文の学習
―「キョウリュウをさぐる」（四年）の実践報告―　瀧　哲朗（一二）
馬王堆出土『帛書老子』の思想
―『老子』生成論の再検討―　石飛　憲（二四）
中国回族の民間説話（二）―人類起源・回族起源説話（続）―　胡　軍・田中瑩一（三五）
復刻　蘆田恵之助　昭和十三年の授業記録（三）
（於　島根県師範学校附属小学校）　田中　瑩一（四四）
［海外研修ノート］バリ島のロンタル（LONTAR）文書について　三保　忠夫（五二）
《研修レポート》アメリカの国語教育

—A case of Thurston High School, Springfield, Oregon. —　高橋　泰幸（六八）
田邊福夫先生退官記念
講演・小学校における作文指導　田邊　福夫（六九）
田邊福夫先生略歴　（八五）
随想・田邊福夫先生を語る　（八六）
倉澤栄吉・桑原隆・安居總子・田中瑩一・森　詔三・武上哲夫・間庭　朗・川津啓義・永島典男・山本絹子・岡　利道
近著紹介　田中瑩一著『冷たい頭、熱い胸…中学生と語る』　（一〇三）
平成四年度　修士論文・卒業論文題目　（一〇五）

第四号（一九九四年二月）森下　弘先生退官記念号

森下　弘先生近影
森下　弘先生を送る　田中　瑩一
森下　弘先生　略歴
書写教育指導の記録から—分析と考察—　森下　弘（一）
島根県の書写・書道教育の歩み　川津　啓義（一一六）
永代節用無尽蔵・いろは節用集大成における助数詞（上）　三保　忠夫（三五）
『秋津島物語』の輪郭—「歴史物語の範囲と系列」補説—　福田　景道（四九）
『春と修羅　第二集』［祠の前のちしゃのいろした草はらに］考　木村　東吉（五九）
『文語詩稿』構想試論—『五十篇』と『一百篇』の差異—　島田　隆輔（七〇）
類書と成語（二）—「沈魚落雁」の成立をめぐって—　湯浅　邦弘（八二）
異化論と児童詩教育—山際鈴子氏の中学年の指導—　足立　悦男（九五）
復刻　蘆田恵之助　昭和十四年の授業記録（於　簸川郡今市（現出雲市今市）小学校）　田中　瑩一（一〇八）
文学教材としての徳田秋聲　リチャード・トランス（Richard Torrance）（一二七）
随想・森下　弘先生を語る　（一三五）
久米　公・福谷昭二・三谷　明・岸本伸三・大牟田　稔・野崎邦臣・中島榮善・斎藤　忍・大畑俊正・足立泰世・森山秋恵
近著紹介　（一五四）
森下清鶴書作品集『湖』
足立悦男著『研究・文芸研の授業』
島根大学教育学部漢文学研究室編『漢文学研究資料集』
平成五年度　修士論文・卒業論文題目　（一五八）

第五号（一九九五年九月）

短作文の相互評価―友達の作文に学ぶ―　坪内　章枝（一）
イメージ豊かな読みをめざす導入の工夫
―「白いぼうし」の指導を通して―　山本　晶子（一二）
コンピュータを利用した『走れメロス』の授業　久村　真司（三八）
文学の授業における読者論的読みの成立
―武田常夫、青木幹勇氏の授業を手がかりに―　湯浅　哲司（三九）
雑誌『童話』における投稿綴方と千葉省三の選評態度　妹尾　由美（四九）
賞と罰の結合―法家における法の内容―　菅本　大二（六三）
永代節用無尽蔵・いろは節用集大成における助数詞（下）　三保　忠夫（七六）
在外教育レポート　ワルシャワ日本人学校と国語科実践報告（１９９１年４月から１９９４年３月までの活動と実態を中心に）　寺本　学（一〇四）
近著紹介　（一〇五）
田中瑩一著『表現開発の国語科授業』
島根大学教育学部国語研究室編『董遇三餘―大学生の読書案内―』
平成六年度　修士論文・卒業論文題目　（一〇九）

第六号（一九九七年三月）田中瑩一先生退官記念号

田中瑩一先生近影
献辞　三保　忠夫
田中瑩一先生略歴
田中瑩一先生著作目録
語らぬ子の神話　内田　賢徳（一三）
『源氏物語』の成立
―その原初の形態から長編的物語へ―　呉羽　長（二一）
中世歴史物語と摂政関白
―『五代帝王物語』と『増鏡』を中心として―　福田　景道（三五）
物語の古層＝〈入水する女〉―『草枕』と『春昼』―　上田　正行（五一）
賢治童話の影の部分　木村　東吉（六七）
宮澤賢治／〔盆地に白く霧よどみ〕／試注　島田　隆輔（七九）
『燃えつきた地図』における曖昧さの生成　田中　裕之（九三）
『性的人間』における罪のモチーフとその背景　岩田　英作（一〇七）
日野啓三『広場』論―物語を拒む小説―　山根　繁樹（一二一）
儒教の形成（Ⅸ）―王号の剥奪―　浅野　裕一（一三五）

類書と成語（四）―二つの「朝三暮四」―　湯浅　邦弘（一五五）
課本と習書―漢代小学書残簡とその形制―　福田　哲之（一七三）
銀雀山漢墓出土竹簡本『尉繚子』の成立時期　竹田　健二（一八七）
鄭の子産―『春秋左氏伝』の善政観とその変容―　菅本　大二（二〇一）
雲州往来書陵部蔵本における声点について　三保　忠夫（二一三）
詩の授業の比較研究
―三好　達治「大阿蘇」―　足立　悦男（二二九）
説明文教材の授業における書く活動と相互評価の意義
―主体的な読み手が育つ授業―　橋本　祐治（二四五）
「走れメロス」―主題解釈と教材性―　久村　真司（二五七）
「空所」を明確にした読みの授業の試み　湯浅　哲司（二七一）
言葉の自覚化過程としての国語科学習　昌子　佳広（二八三）
書評　（二九七）
田中瑩一・藤井圀彦編著『言葉をみがく国語科の授業を創る』
雲石「国語」の会編『言葉をみがく国語科授業の探求―雲石「国語」の会の十年』
新刊紹介
三保忠夫・三保サト子編著『雲州往来享禄本　研究と総索引　索引篇』　（二二七）
「気持ちを声にのせる―書く学習と結び合わせて」
―「夕鶴」（日本書籍4年下）―　倉光信一郎（27）
国語科学習指導の基礎基本に関する一考察　若林　祥廣（15）
説明する作文の指導に関する実践的研究（1）　岡　利道（1）

第七号（一九九七年九月）

子どもの意識の流れにそった国語科学習をめざして
―「手ぶくろを買いに」（小三）の実践をとおして―　藤原　さり（一）
音読と変身作文により、物語の理解を深めていく授業
―「ガオーッ」（小四）―　金山　剛志（一二）
児童生徒の言語感覚と国語教育
―子どものことば・若もののことば―　倉光信一郎（二五）
生徒の言語生活に立った文法学習の試み
―単元『動詞の小箱』の指導をとおして（中一）　佐藤　文宣（三五）
中学校における平和教材の再構築
―単元「平和への願い」から単元「家族と戦争」へ

（中一）―　星野　寿幸（五一）
選択教科国語―「現代の怪談」（中三）　佐藤　安治（六四）
平城宮長屋王邸宅跡出土木簡における助数詞について　三保　忠夫（七一）
平成七年度・八年度　修士論文・卒業論文題目　（八六）

第八号（一九九八年七月）

詩序集宮内庁書陵部蔵本の声点について　三保　忠夫（一）
宮沢賢治／〔月の鉛の雲さびに〕／試注
―「殊に凝集化」への過程―　島田　隆輔（二五）
国語科における読書指導のあり方
―主体的な読書行為の成立のために―　森脇　紀浩（四七）
実践報告―誰にでもできる書写指導をめざして―　天野　和子（五九）
書評　*R. P. Peerenboom*
Law and Morality in Ancient China, The Silk Manuscripts of Huang-Lao
(NewYork:SUNY Press, 1993)
（R・P・ピーレンブーム著『古代中国における法と道徳
黄帝帛書』）―アメリカにおける黄老思想研究―　石飛　憲（六九）
新刊紹介　（八二）
三保忠夫・三保サト子編著『雲州往来　享禄本　本文』
劉文英著／湯浅邦弘訳『中国の夢判断』
田中瑩一著『表現研究と国語教育』
岡　利道著『短作文教育研究　藤原理論、それ以前、そして未来』
岡　利道編著『学ぶよろこびを育む国語科の授業』
平成九年度　修士論文・卒業論文題目　（八七）
いつでもどこでも誰でもできる『読書指導』をめざして
～年間指導計画に位置づけて～　森山　由美（1）

第九号（一九九九年十月）

自分の思いを生き生きと表現する児童の育成
～話すこと・聞くことの指導のあり方～　池淵　昌志（一）
『韓非子』難勢篇と『荀子』の勢説
―先秦の「勢」思想の展開―　石飛　憲（一三）
『篆隷文体』の讖緯的性格について　横田　陽一（二五）
四川方言の量詞の考察　陳　亦文（19）
説明する作文の指導に関する実践的研究（2）　岡　利道（1）
平成十年度　修士論文・卒業論文題目　（七一）

第十号（二〇〇〇年六月）

屏風類を数える助数詞―『正倉院文書』を中心に―　三保　忠夫（一）

一九二三（大正十二）年二月の宮沢賢治　島田　隆輔（一三）

『地の果て　至上の時』と『道草』
―〈秋幸〉と〈健三〉を中心に―　大畑　景輔（二五）

大正期の読み方教授案　翻刻と考察
―大正期国語教育における文学教育の位置―　昌子　佳広（三九）

国語科ディベート学習の研究～説明文教材を中心に～　木村　真理（五一）

呉大澂『字説』における古文字分析の特色　首尾木真代（六五）

平成十一年度　修士論文・卒業論文題目　（七三）

第十一号（二〇〇一年十二月）

授業研究「のはらうた」の世界―アンソロジーの授業　足立　悦男（一）

間テクスト性に注目した説明的文章の読みの学習指導論の構想　間瀬　茂夫（一五）

中学校「聴写」の試み～三年間の取り組み～　須谷　晶子（二九）

パネルディベートへの取り組み　村上　恵崇（1）

平成十二年度　修士論文・卒業論文題目　（五五）

第十二号（二〇〇二年十二月）

学力低下論とこれからの国語教育　浜本　純逸（一）

「聞き手」指導に重点を置いたディベート　小村奈緒美（一三）

自分にとっての〈わかりやすさ・わかりにくさ〉を探る説明的文章の指導―単元「増補版・動物の体」（増井・〇〇共著）をつくろう（五年）―　森脇　紀浩（二五）

国語科・社会科連携指導による短歌創作指導の試み
米テロ事件を短歌に詠む　伊東　亜紀（三九）

友だちと読み合うことの楽しさをもとめて
～複式中学年「ごんの行動から，ごんの気持ちを読みとろう『ごんぎつね』（光村図書4年下）」の実践から～　金山　剛志（1）

平成十三年度　修士論文・卒業論文題目　（六三）

第十三号（二〇〇三年十二月）

文学を学校教育で扱う理由　山元　隆春（一）

『荀子』における「幸」と「数」　菅本　大二（一七）

資料紹介　新田文庫本『懐徳堂紀年』　竹田　健二（二九）

郭店楚簡『老子』をめぐる諸問題　喜代吉見子（四七）

島根大学教育学部国文学会（研究発表・フォーラム・講演）総目録　（五七）

平成十四年度　修士論文・卒業論文題目　（六五）

第十四号（二〇〇五年三月）木村東吉先生退職記念号

木村東吉先生近影
献呈の辞　三保　忠夫
木村東吉先生略歴
木村東吉先生著作目録
〈前衛〉の衰弱―安部公房『さまざまな父』を読む　田中　裕之（一一）
《少年》という可能性
―日野啓三『天窓のあるガレージ』論―　山根　繁樹（一二三）
浮舟の出家と瀬戸内寂聴―小説「髪」に着目して―　呉羽　長（三三）
『走れメロス』論―小さな勇者―　岩田　英作（四七）
貴きアラヴの種馬／文語詩稿五十篇「悍馬」試注　島田　隆輔（五七）
ラフカディオ・ハーンと俳句　日野　雅之（六九）
『新宅屋本「歌乃雙紙」』所収田植歌鑑賞　田中　瑩一（七九）
『梅松論』の皇位継承史構想
―後堀河院・後嵯峨院・光厳院の正統性―　福田　景道（九一）
上博楚簡『魯邦大旱』における「名」　浅野　裕一（一〇五）
出土文献研究における字体分析の意義
―郭店楚簡『語叢三』を中心として―　福田　哲之（一一七）
郭店楚簡『性自命出』・上博楚簡『性情論』の性説　竹田　健二（一二七）
『六韜』の文献学的検討　郷原　翼（一四一）
ロシア軍艦ディアナ号と懐徳堂
―並河寒泉の「攘夷」―　湯浅　邦弘（一五一）
地方文書と助数詞―色部氏年中行事―　三保　忠夫（一六五）
村上春樹「レーダーホーゼン」論
―教材としての可能性　足立　悦男（一七七）
寒川鼠骨の写生文・日記文の捉え方　岡　利道（一八七）
イメージを広げる授業
～古典を教材とした授業からのアプローチ～　岡崎　博文（二〇一）
教材『海の命（いのち）』論（一）
―原典（絵本）『海のいのち』との比較をもとに―　昌子　佳広（二一一）
生きる力を育む言葉の教育
―主体的読解に基づく言語獲得の重要性―　毛利　徹生（二二三）
学校図書館機能の類型化の試み
―児童生徒の関わり方に注目して―

平和、教育、文化交流の旅　二井依里奈（一三五）
―ロシア、ウクライナ、ボスニア―
平成十五年度　修士論文・卒業論文題目　森下　弘（一四七）（一五八）

第十五号（二〇〇六年三月）
集字聖教序の材料となった王羲之書の性格　藤里　綾子（一）
小学校中学年の説明文教材における語彙指導の試み　伊木真由美（一三）
教材『海の命（いのち）』論（二）
―立松和平『一人の海』との比較をもとに―　昌子　佳広（二七）
〈研究報告〉国語教科書におけるメディア・リテラシー教材　島根大学教育学部言語教育ゼミ・間瀬茂夫（四一）
平成十六年度　修士論文・卒業論文題目（五三）

第十六号（二〇〇七年三月）
島根の伝承文学から　酒井　董美（一）
文語詩稿〔盆地に白く霧よどみ〕の生成
―兄妹像手帳稿の位置づけから　島田　隆輔（一三）
『秋霧記』に記された『懐徳堂紀年』の成立過程とその献上　竹田　健二（二七）
科学絵本を用いた小学校国語科授業実践の試み　間瀬　茂夫（四五）
平成十七年度　修士論文・卒業論文題目（五九）

第十七号（二〇〇八年二月）
島根大学堀文庫について　田中　則雄（一）
《である》ことへの異和
―日野啓三『夕焼けの黒い鳥』論―　山根　繁樹（一一）
昔話の教材化～音読を中心にして～　喜多川昭博（二三）
資料紹介　懐徳堂記念会所蔵「懐徳堂記念会記録」　竹田　健二（三五）
小さな島の小・中・高連携
～漢字検定の取り組みを通して～　坂本　公應（1）
平成十八年度　修士論文・卒業論文題目（四七）

第十八号（二〇〇九年二月）
働くことの彼方へ―「フリーター・ニート文学」―　田中　俊男（一）
甦れ！打吹天女伝説　山本美千枝（一一）
実践報告―表現活動と書く指導について　大畑　景輔（二五）
資料紹介　西村天囚述「五井蘭洲」
（大阪人文会第二次例会講演速記録）

三浦綾子『氷点』論―成功した「失敗作」―（上）　竹田　健二（三三）
平成十九年度　修士論文・卒業論文題目　道下　晃子（五七）
（六九）

第十九号（二〇一〇年一月）
自覚的な表現者を育てる国語科の授業
―書くことの指導―　橋本　祐治（一）
「書くことで生活を豊かにする」学習指導の試み
―「書写」をその題材として―　米田　達司（一三）
ことばにこだわる俳句鑑賞の試み　岡　卓志（二七）
三浦綾子『氷点』論―成功した「失敗作」―（下）　道下　晃子（三九）
性・群像・切断―林芙美子「市立女学校」論　田中　俊男（五七）
平成二十年度　修士論文・卒業論文題目　（七三）

第二十号（二〇一一年一月）
漢文教育史による対話についての試論　冨安　慎吾（一）
国語辞典を活用した国語科の授業について
―説明的文章教材を中心に―　横田　陽一（一五）
中古和文における「見え～」について　百留　康晴（二九）
懐徳堂記念祭における儒礼　竹田　健二（四一）
国語教育論叢　総目録（第一号―第二十号）（五三）
平成二十一年度　修士論文・卒業論文題目（六二）